

## 令和2年度より

全体での活動は継続しつつ「エリア活動」と「オンライン」に軸足をシフト。  
自分たちがしたいこと、学びたいことを自分達で企画し実行していくことを推進。



- メリット ①参加しやすい環境 ②地域それぞれの課題、特色を踏まえたニーズにあった活動の展開が可能  
③メンバーに対して、より多くの交流や学ぶ機会の提供が可能（他エリアの企画に参加可能）

# エリア活動の例（最上エリア）



## 地域創生についての勉強会

一般社団法人最上のくらし舎代表理事の吉野優美氏による講和



## SDGs研修 協力（株）リコー山形支社様（あぐっと応援団）



## 地元マルシェ出店 (kitokitoマルシェ)

## エリア活動の例（東南村山エリア）



山形県園芸農業研究所 果樹栽培視察研修



合同SDG s 基礎研修



紫外線 シミ・しわ対策講座（オンライン）  
協力 エステサロン デジョア様

### その他

- ・顔合わせ会（オンライン）
- ・先進的な循環型農業を実践されている農家（遠藤ファーム様）を招いての研修会（オンライン）

# エリア活動の例（西北村山エリア）



エリア交流会



人生100年時代に備えるお金の勉強会  
(ファイナンシャルプランナーをお迎えして)



山形県村山産業高校×あぐっと  
コラボ企画に向けた打ち合わせ



AGRI BATON PROJECT 全国リレーin山形<sup>12</sup>

## エリア活動の例（置賜エリア）



エリア交流会



置賜メンバー主催のマルシェ



写真の撮り方講座



農機研修

普及課に自分たちが興味のあるトピックを随時伝えることで、研修実施に繋がることもある。

# エリア活動の例（庄内エリア）



エリア交流会



新規就農者獲得ビデオ作成  
（山形県の支援事業を活用）



メンバーの圃場に視察研修（柿栽培・いちじく栽培）

# 今後の課題および展開



## ▷重要「継続してネットワークを維持していくこと」

- ・ 農業・家事・育児・介護と忙しい年代の女性農業者が運営できる工夫をしていく必要がある。

## ▷今後の展開

- ・ 地域・行政・各種団体等と連携し、叶えたい未来に向けて力を合わせ「自分達で」実行していこう。
- ・ 持続可能な社会の実現のために、あぐっと（女性農業者の団体）として何ができるのか？模索し実行していこう。

